

# 普及情報

## す タンポくんの棲む環境にやさしい米づくり

### はじめに

宍粟市山崎町の<sup>ひじま</sup>土方特別栽培米研究会（会員数23名）は、1990年に設立され、100%有機質肥料を使用し、節減対象農薬を4成分（県慣行比8割減）とした水稻栽培10haを研究・実践している。とれた米はマスコットキャラクター「タンポくん」にちなんで「タンポ米」と名付け、町内の学校給食の全量（白米32t）を契約栽培し、供給している。

また、2006年度からは環境創造型農業推進事業に取り組み、環境創造型農業技術栽培体系の実証、田んぼの生き物調査、環境シンボル「タガメ」の設定とマスコットキャラクター作成、ニュースレターによる環境保全啓発を実施した。

これらの取り組みを通して、地区内に活動の和を広げ、環境創造型農業の定着を目指している。

### 普及活動の内容

栽培だけでなく環境保全への取り組みを促すため、以下の活動を行った。

#### (1) 生き物調査の実施

この栽培により育まれる多様な生き物を、次世代に引き継ぐため、田んぼの生き物調査を実施している。地域の土万小学校や自治会と連携し、地域をあげて自分たちのムラの自然環境を知る機会とした。アンケート調査では、前向きな意見が大多数を占め、関心の高さを実感することができた。

#### (2) マスコットキャラクター「タンポくん」の誕生 対外PRにマスコットキャラクターは必須である。

タガメが田んぼにいることで安全安心を担保するとの思いから、地元の小学生がタガメを模したキャラクターを「タンポくん」と名付け、PRに活用している。

#### (3) ニュースレターの発行

地区内の環境保全に対する気運を高めるため、全戸配布用の「田鼈（たがめ）通信」と、小学生向け「タガメだより」の2種類のニュースレターを発刊している。これを通して環境創造型農業の取り組みをはじめ、タガメを中心とした生き物の話や環境保全について考えてもらい、地区内での買い支えによる米の販売安定などにもつなげたいと考えている。

### 今後の課題

環境保全や環境創造型農業に対して、必ずしも地区内全員の意識が高まったわけではない。総論は賛成だが各論となると、雑草の発生など栽培上のリスクも高くなり、不安を感じる人が多い。しかし、自分たちの“ムラ”をどう守り、次の世代に引き継いでいくかを、「地域で真剣に考えていかななくては」と思う人が増えてきた。

「タンポ米」栽培を広め定着させることで一層その気運が高まり、土万地区の自然環境が豊かに、そして地域の人が安心して“ムラ”を次代に引き継ぐことのできる地域づくりに繋（つな）がれればと考えている。

濱野 宏治（龍野農業改良普及センター）  
（問い合わせ先 電話：0791-63-5176）



図1 生き物調査の様子



図2 タンポくん

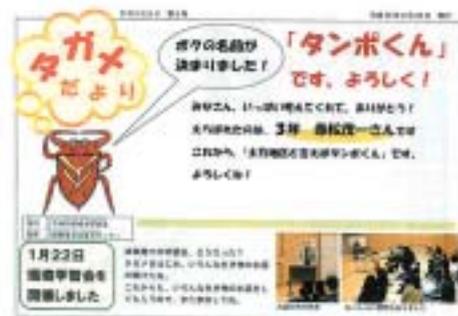


図3 タガメだより

ひょうごの農林水産技術 No.165

平成21年9月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400